

長崎大学の理念と基本目標

長崎大学は、これまで「長崎に根づく伝統的文化を継承しつつ、豊かな心を育み、地球の平和を支える科学を創造することによって、社会の調和的発展に貢献する」との理念に基づき高度の教育・研究活動を展開してきた。新世紀初頭の国立大学法人への移行を契機に、更なる教育・研究の高度化と個性化を図り、アジアを含む地域社会とともに歩みつつ、世界にとって不可欠な「知の情報発信拠点」であり続けることを宣言する。

この理念の達成に向けた基本目標として、以下の5項目の最重点事項を掲げています。

- 1 長崎大学は教育、研究の両面で世界のトップレベルを目指して、戦略的な教育研究企画を推進し、教育・研究の更なる高度化、個性化を図る。
- 2 「学生顧客主義」の標語の下、教養教育、学部専門教育、大学院教育の充実を図って最高水準の教育を提供するとともに、入学者選抜、課外活動、就職などを含む学生生活の全般にわたって支援体制を一段と強化する。
- 3 大学で創造する知的財産の適正な管理を行い、知的財産と人的・物的資源を活用した地域連携、産学官連携、国際的連携を通して教育・研究成果の社会への還元を推進する。
- 4 不断に外部評価も含めた点検・評価を行い、それを教育・研究の改善実施に直結できる体制を整備し、かつ、その情報公開に努める。
- 5 教育研究組織、事務組織の見直しや情報の一元的な管理体制を構築することにより業務の高度化、効率化を図る。また、柔軟な管理運営、人事、財務システムを導入して大学法人の経営基盤を確立する。

(国立大学法人長崎大学中期目標(2004年度～2009年度)前文より)



これらの目標の達成に向けて、長崎大学は次のような特色ある取組を展開しています。

長崎大学が誇る特色

平成20事業年度に係る業務の実績に関する報告書・全体的な状況より引用

I 新しい大学運営体制の導入と活用

法人経営については役員会の構成員である理事が学長の意志決定を支えることとなるが、本学の法人経営と大学運営の責任を明確にするため、学長交代を機に、従前の戦略企画会議を大学の運営本部的機能を有する「学長・副学長会議」に再編し、副学長の権限・責任の強化と増員を行い、大学の各種本部業務を副学長の下にライン化した。副学長は、担当業務に関する全学委員会の委員長や全学共同教育研究施設等の長として業務を統括する。

「学長室」を学長の諮問機関として位置づけ、諮問された大学の重要懸案ごとに外部有識者を含めたワーキンググループを設置し、客観的見地からの意見を踏まえた議論を展開し、見識ある調査・分析、企画・立案を行うこととした。平成20年度は医学部・歯学部附属病院の改革に関するワーキンググループ「大学病院改革検討委員会」を設置し、同ワーキンググループからの「医学部・歯学部附属病院を長崎大学病院とすること」、「病院長は学長が指名する理事が務めること」等の学長への最終答申(平成21年3月)を受けて、平成21年度からの実施を決定した。さらに、教養教育(全学教育)の見直し等に関するワーキンググループを設置し、検討を開始した。

II 長崎大学の特徴を活かした教育研究組織の編成と特色ある教育研究の推進

(1) 教育研究組織の編成

国際協力の現場、特に地球規模の健康課題に対処する分野で活躍できる高度な知識と技能を有する人材を育成するため独立研究科として国際健康開発研究科（修士課程）を設置した。本研究科を大学の戦略的観点から運営するため、研究科長は学長が指名し、研究科の管理運営（教員組織、教員人事、予算等）については学長を議長とする「国際健康開発研究科運営評議会」が審議を行い、研究科に置く「教授会」は教学関係事項の審議のみを行うという、新たな運営体制を構築した。

情報文化教育課程を廃止し、学校教育教員養成課程の一課程に再編することにより、教育学部を教員養成学部にて特化した。さらに、教育学研究科において、教職実践専攻（専門職学位課程）及び教科実践専攻（修士課程）を設置した。学生及び職員の健康を守り、予防に努めるとともに、保健・医療分野での医療教育、本学の地域連携及び地域貢献を県及び自治体と連携し、推進することを目的として保健管理センターを改組し、保健管理部門、カウンセリング部門、へき地病院再生支援部門及び離島・へき地医療教育研究部門の4部門を置く、保健・医療推進センターを設置した。

(2) 特色ある教育プログラムの推進

特色ある教育プログラムとして平成20年度に下記の3プログラムが採択された。

- ①「地域医療人育成プラットフォームの構築」【教育 GP】：平成16年度に特色 GP に採択された「地域と連携した実践型医学教育プログラム」をさらに発展させ、6年一貫の地域医療教育体制を離島の保健・医療・福祉施設を中心に構築し、全教育課程を通して継続的に学ぶ「地域医療総合プログラム」を実施する。
- ②「新興金融市場分析の専門教育プログラム」【大学院 GP】：中国・韓国の大学とのネットワークによる海外フィールド研究及び東京証券取引所でのインターンシップの実施、アジア市場の分析に焦点を当てたコース科目の実施等により、アジアを中心とする新興金融市場で活躍する高度専門職業人を育成する。
- ③「国際保健分野特化型の公衆衛生学修士コース」【大学院 GP】：国際基準を満たす国際保健学のカリキュラムの実施、開発途上国での短期フィー

ルド研修と長期インターンシップの実施により、開発途上国の現場で活躍できる実践的な国際保健の問題解決能力を有する人材を養成する。

その他、健全な社会を支える技術者の育成【平成18年度採択：現代 GP】、PAT プログラムによる地域共生力の育成【平成19年度採択：現代 GP】、学生が自ら育む人間関係力醸成プログラム【平成19年度採択：学生支援 GP】、がんプロフェッショナル養成プラン【平成19年度採択】を推進した。特に、平成18年度に採択された「現代『出島』発の国際人育成と長崎蘭学事始」【現代 GP】に基づき、ライデン大学と本学との学術交流・教育交流の促進のため、オランダ王国ライデン市に長崎大学在ライデン国際交流推進室を設置した。

(3) 長崎大学の個性を発揮する COE および重点研究10課題と地域連携の推進

平成18年度に選定した重点研究10課題を推進するために、学長、理事及び外部評価委員等による中間評価を行い、3年間の進捗状況について検証し、各研究課題の今後の推進体制について見直しを行った。

平成20年度グローバル COE プログラムに21世紀 COE プログラムの成果を引き継いだ「熱帯病・新興感染症の地球規模制御戦略」が採択された。ベトナムプロジェクト拠点では、拠点共同研究室の NIHE・ハイテクセンターへの移転を行い、共同研究室の機能を充実させた。また、平成19年度グローバル COE プログラムに採択された「放射線健康リスク制御国際戦略拠点」では、ベラルーシ共和国に「チェルノブイリ分子疫学調査研究プロジェクト拠点」を設置するとともに、WHO との連携事業の展開、複数の国際シンポジウムを開催するなど積極的な活動を行った。

長崎県内における治験産業の誘致・創出を目指して「長崎治験事業推進連携チーム」を産学で結成して「長崎県創薬・医工連携関連産業創出プロジェクト支援事業」に応募し、採択された。工学部からの提案「離島へき地の在宅介護力向上のための遠隔ケアシステムの開発」が総務省の平成20年度戦略的情報通信研究開発推進制度に採択された。

III 学長のリーダーシップによる戦略的な法人経営

1. 資源確保と効果的配分

人件費削減計画を計画通り実行し、学長管理教職員ポストを6増やし11とした。そのうち、教授1及び准教授2の学長管理教職員ポストを保健管理センターを

改組した保健・医療推進センターに配置した。平成20年度の科学研究費補助金、共同研究、受託研究、その他の外部資金の獲得総額は前年度より167,458千円増の4,780,953千円であった。工学部においては、TDK株式会社からの寄附（5年間総額135,000千円）を受け「TDK 寄附講座エネルギーエレクトロニクス学講座」を設置した。また、医歯薬学総合研究科に長崎県及び五島市からの寄附により設置している「離島・へき地医療学講座」については、平成21年度から5年間（総額200,000千円）の継続設置を決定した。知的財産本部は(株)長崎 TLO と協働して、シーズ・ニーズ情報の共有化を図るとともに技術分野別に役割分担を進め、シーズ運用活動に重点を置いた結果、ライセンス契約数は17件、契約料は46,716千円に達した（平成19年度比3件増、37,738千円増）。施設の外部への貸出しを拡大するため、貸出可能施設の拡充、本学ホームページによる情報提供の充実、他機関のホームページへのリンク等を行った結果、大幅な増収（平成19年度比15,607千円増）となった。さらに、長崎大学就業情報管理システム、旅費業務の外部委託等による業務の見直し、効率化を行った。

大学として重点的に取り組むべき優れた研究テーマとして選定した重点研究10課題を推進するため、学長裁量経費（重点研究課題推進経費）の配分を増額（80,000千円 対前年度44,000千円増）し、研究支援員雇用、シンポジウム開催等の支援を行うとともに、間接経費（全学共通経費）を用いて共通的研究設備の整備・更新を優先的に行った。学長裁量経費の配分を大幅に増額（100,000千円 対前年度76,000千円増）し、国立科学博物館での企画展「熱帯感染症と『たたかう』長崎大学」の開催、国際シンポジウムの開催、下村脩名誉博士ノーベル化学賞受賞記念事業の実施等を積極的に支援した。

2．男女共同参画の推進

男女共同参画の推進を図るため、新たに男女共同参画担当の副学長を配置し、人事委員会の審議事項に男女共同参画に関する事項を加えるとともに、同委員会に男女共同参画推進専門部会を設置した。地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム「女性医師の麻酔科復帰支援プロジェクト」【平成18年度採択：医療人 GP】により附属病院に設置した「女性医師麻酔科復帰支援機構」において、退職後に復帰支援を必要とする女性麻酔科医及び麻酔科への転向を希望する他分野女性医師を全国公募により専修

医として採用し、再教育プログラムにより復帰に向けての2年間の研修環境を提供した。

3．危機管理への対応

「長崎大学における新型インフルエンザの予防及び対応に関する指針」を策定し、各部署、全構成員等への周知を徹底した。学生の海外留学、海外研修、国際ボランティア活動等の増加に伴う危機管理対策の一環として「海外緊急事故対策シミュレーション」を実施した。

IV 長崎大学が持つ知的資産の積極的発信

「長崎大学学術研究成果リポジトリ (NAOSITE)」の登録数の増加を図り、登録数は1万5千件以上となり、リポジトリの世界的総合ランキング Webometrics Ranking of World Repositories で世界第132位、国内第7位（平成21年1月）にランクされた。東京・上野公園の国立科学博物館において、企画展「熱帯感染症と『たたかう』長崎大学」を3月に開催し、9日間の開催期間中1万1千名以上の入場者があった。ノーベル化学賞を受賞した下村脩名誉博士の講演会「ノーベル賞受賞の原点 - 長崎大学」を大学生や長崎県内の高校生、中学生など700名を対象に本学中部講堂において開催した。附属図書館は、長崎大学医学部の前身である養生所の第2代教頭のアントニウス・ボードインが撮影・収集した古写真のアルバム「ボードイン・コレクション」などを電子化して「長崎学デジタルアーカイブス」を公開した。

V 総括と展望

平成20年度は、平成16～19年度の中期目標期間評価を受審し、「業務運営・財務内容等の状況」、「教育研究等の質の向上の状況」とも「良好である」との評価結果であった。さらに、学部・研究科等の現況分析では、教育、研究とも良好な評価結果を得ている。上記のように、平成20年度の年度計画も順調に達成された。中期目標期間の最終年度（平成21年度）は、平成16～19年度の中期目標期間評価結果で指摘された事項の改善に努め、年度計画の達成により中期目標の実現を図る。

役員・職員数

平成20年 5月 1日

役員・職員数

役員			教育職員							その他の職員	合計
学長	理事	監事	教授	准教授	講師	助教	助手	教諭	計		
1	5	1	315	258	97	343	8	93	1,114	1,377	2,498

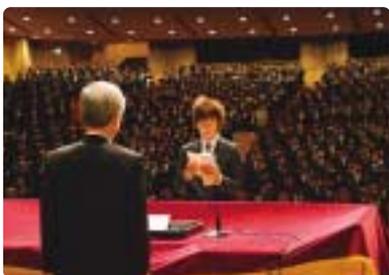
理事(1)、監事(1)は、非常勤役員で外数

学生数

平成20年 5月 1日

大学院（現員数）

修士・博士前期課程			博士・博士後期課程				
1年次	2年次	計	1年次	2年次	3年次	4年次	計
375	429	804	150	141	169	213	673



学部（現員数）

1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計
1,717	1,697	1,787	2,184	171	156	7,712



▶上記の数値の詳細は、平成20年度長崎大学概要をご覧ください。
<http://www.nagasaki-u.ac.jp/guidance/gaiyo/h20/h20gaiyo.html>

長崎大学位置図 Location Map

長崎県 Nagasaki Prefecture



臨海研修所

Seaside Training Center

環東シナ海洋環境資源研究センター

Institute for East China Sea Research

教育学部附属特別支援学校

School for Children with Special Education Needs

教育学部附属幼稚園、附属小学校、附属中学校

Kindergarten, Elementary School, Lower Secondary School

知的財産本部、監査室、学務情報推進室、事務局、

教育学部、附属教育実践総合センター、薬学部、

工学部、環境科学部、水産学部、

附属図書館(中央図書館)、生産科学研究科、

医歯薬学総合研究科(薬学系)、附属薬用植物園、

保健・医療推進センター、

情報メディア基盤センター、

共同研究交流センター、

生涯学習教育研究センター、留学生センター、

大学教育機能開発センター、

アドミッションセンター、

心の教育総合支援センター、やってみゅーでスク

Intellectual Property Center, Audit Office, Student Affairs Information Promotion Office, Administration Bureau, Faculty of Education, Center for Education Research and Training, School of Pharmaceutical Sciences, Faculty of Engineering, Faculty of Environmental Studies, Faculty of Fisheries, Main Library, Graduate School of Science and Technology, Graduate School of Biomedical Sciences (Pharmaceutical Sciences), Medicinal Plant Garden, Center for Health and Community Medicine, Information Media Center, Joint Research Center, Education and Research Center for Life-long Learning, International Student Cen-

ter, Research and Development Center for Higher Education, Admission Center, Center for Total Human Education and Child Welfare, Yattemyu Desk

国際連携研究戦略本部、医学部(医学科)

熱帯医学研究所、医歯薬学総合研究科(医学系)

国際健康開発研究科、

附属原爆後障害医療研究施設、

先導生命科学研究支援センター、

附属図書館(医学分館)

Center for International Collaborative Research

School of Medicine (School of Medical Sciences)

Institute of Tropical Medicine

Graduate School of Biomedical Sciences (Medical Sciences)

Graduate School of International Health Development

Atomic Bomb Disease Institute

Center for Frontier Life Sciences

Medical Library

医学部・歯学部附属病院、歯学部、

医歯薬学総合研究科(保健学系・歯学系)、医学部

(保健学科)

University Hospital of Medicine and Dentistry,

School of Dentistry, Graduate School of Biomedical Sciences

(Health Sciences・Dental Sciences), School of Medicine (School of Health Sciences)

経済学部、附属図書館(経済学部分館)

Faculty of Economics, Economics Branch Library

野母崎研究施設

Nomozaki Research Laboratory

九州地区国立大学島原共同研修センター

Shimabara Joint Training Center for National Universities in Kyushu Area

長崎市 Nagasaki City



経済学部、附属図書館（経済学部分館）

Faculty of Economics, Economics Branch Library

医学部・歯学部附属病院、歯学部、

医歯薬学総合研究科(保健学系・歯学系)、医学部
(保健学科)

University Hospital of Medicine and Dentistry, School of Dentistry, Graduate School of Biomedical Sciences (Health Sciences・Dental Sciences), School of Medicine (School of Health Sciences)

国際連携研究戦略本部、医学部（医学科）

熱帯医学研究所、医歯薬学総合研究科（医学系）

国際健康開発研究科、

附属原爆後障害医療研究施設、

先端生命科学支援センター、

附属図書館（医学分館）

Center for International Collaborative Research
School of Medicine (School of Medical Sciences)
Institute of Tropical Medicine
Graduate School of Biomedical Sciences (Medical Sciences)
Graduate School of International Health Development
Atomic Bomb Disease Institute
Center for Frontier Life Sciences
Medical Library

知的財産本部、監査室、学務情報推進室、事務局、

教育学部、附属教育実践総合センター、薬学部、

工学部、環境科学部、水産学部、附属図書館、

生産科学研究科、医歯薬学総合研究科（薬学系）

附属薬用植物園、保健・医療推進センター、

情報メディア基盤センター、

共同研究交流センター、

生涯学習教育研究センター、留学生センター、

大学教育機能開発センター、

アドミッションセンター、

心の教育総合支援センター、やってみゅーでスク

Intellectual Property Center, Audit Office, Student Affairs Information Promotion Office, Administration Bureau, Faculty of Education, Center for Education Research and Training, School of Pharmaceutical Sciences, Faculty of Engineering, Faculty of Environmental Studies, Faculty of Fisheries, Main Library, Graduate School of Science and Technology, Graduate School of Biomedical Sciences (Pharmaceutical Sciences), Medicinal Plant Garden, Center for Health and Community Medicine, Information Media Center, Joint Research Center, Education and Research Center for Life-long Learning, International Student Center, Research and Development Center for Higher Education, Admission Center, Center for Total Human Education and Child Welfare, Yattemyu Desk

教育学部附属幼稚園、附属小学校、附属中学校

Kindergarten, Elementary School, Lower Secondary School

国際交流会館

International House

教育学部附属特別支援学校

School for Children with Special Education Needs